

【論点の対応部分の整理】

論 点	新ガイドラインでの該当箇所
<p>論点1：ガイドラインの体系化と名称</p> <ul style="list-style-type: none"> • EPIを含めて、総合化・整合化・シリーズ化によるガイドライン体系化する。 • 現行ガイドラインの枠組みは基本的に踏襲する。 • ガイドライン名称は新しいガイドラインの内容に併せて検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 表紙 名称を「環境報告書ガイドライン～持続可能な社会を目指して～」として、副題で方向性を示した。 • はじめに 現行ガイドラインの踏襲とその他の手引書等の体系について説明した。 • 序章4．既存のガイドライン等との関係 既存のガイドラインとの関係を説明した。
<p>論点2：第三次環境基本計画の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> • 環境・経済・社会の統合的向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> • はじめに 第三次環境基本計画の閣議決定について記載した。
<p>論点3：天然資源管理、生物多様性や持続可能性の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生物多様性は持続可能性の観点から世界的にも重要な課題となってきた。 • サプライチェーンまで考慮すると、業種を問わず間接的に関連する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 新規記載項目を追加 記載項目として、「MP-9 生物多様性の保全への対応」を追加した。
<p>論点4：CSR（社会性）の視点の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会性についての取り扱いを明確にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • はじめに ガイドライン改訂の社会的な背景の一つとしてCSRへの関心の高まりについて説明した。 • 記載項目の見直し 社会性については2003年版の項目を見直し、整理・列挙するにとどめた。 • 全般的な見直し

<p>論点 5：金融のグリーン化の視点の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 「資金の調達及び使途」情報や投資家等からの企業評価に資する金融情報を報告する。 開示内容が共通化すると評価しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> はじめに 環境報告書が金融機関等を含め、企業評価に活用されることを推奨した。 新規記載項目を追加 第3章「1．基本的項目」「主要な指標等の一覧」で、環境報告書の概要が一覧できること推奨した。 新規記載項目を追加 記載項目敏江、「MP-4 環境に配慮した金融情報」を追加した。
<p>論点 6：環境報告書の信頼性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 第三者検証や第三者意見のあり方について取り上げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 記載内容の見直し 第1章「4．環境報告書の一般原則」「6．環境報告書の信頼性向上のための方策」
<p>論点 7：バウンダリー問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 報告組織と環境パフォーマンスのバウンダリー（範囲）を明らかにする。 環境パフォーマンスの計算式を標準化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 記載項目の見直し 第1章「4．報告に当たっての基本的要件」の「対象組織の明確化」に説明を追加した。
<p>論点 8：GHG制度等新制度との整合性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 記載項目の見直し 第3章「OP-6 温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策」を見直した。
<p>論点 9：新環境会計ガイドライン等</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の環境関連ガイドラインや環境配慮法などとの整合性を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 記載項目の見直し 序章「4．既存のガイドライン等との関係」を見直し、「参考資料」に参考情報を追加した。
<p>論点 10：PDCAの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状ではPDCAの開示のありようが曖昧であり、その徹底化の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 記載項目の見直し 「環境保全」から「環境経営」を打ち出し、記載項目について方針、目標、計画、状況、実績の報告を記載することを推奨した。
<p>論点 11：環境報告書の目的・性格の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> 報告書の発行する裾野を広げるのか、より高度な内容の報告書を求めるのか。 内容・構成のスリム化・コンパクト化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 序章「ガイドラインの対象」 ガイドラインは全ての事業者を対象とする従来の考え方を踏襲する。

<p>論点 12：ガイドラインの作り手と読み手の 明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規記載項目を追加 <ul style="list-style-type: none"> 第1章「5．環境報告書ガイドラインの作成及び活用に当たっての留意点」を追加し、作成の手順を解説するとともに、ステークホルダー別の解説を追加した。
<p>論点 13：重要性の概念</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「重要性」の考え方について解説を追加 <ul style="list-style-type: none"> 第1章「3．環境報告書の一般的報告原則」 「5．環境報告書ガイドラインの作成及び活用に当たっての留意点」に重要性の考え方についての解説を追加した。
<p>論点 14：報告媒体</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境報告書の媒体の多様性について検討する。Web との併用の場合など。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規記載項目を追加 <ul style="list-style-type: none"> 第1章「5．環境報告書の作成及び活用に当たっての留意点」に「公表媒体について」の解説を追加した。
<p>論点 15：その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新たな項目(作り手、読み手の利便性から) ● 比較可能なサマリー ● トピックス ● 事例、Q&A 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規記載項目を追加 <ul style="list-style-type: none"> ● 第3章「基本的項目」に「主要な指標等の一覧」を記載項目として追加した ● 第1章「5．環境報告書の作成及び活用に当たっての留意点」に「トピックス・特集について」の解説を追加した。 ● 事例、Q & A は参考資料で対応する。

(以上)